

2 学力向上推進計画

1 意義と目的

- (1) 各学力調査に向けて、全校体制で学力向上に取り組むことにより、生徒に「確かな学力」を身につけさせる。
- (2) 各学年、各教科で連携を図り、計画的、具体的な実践を行うことにより、各教科における「基礎・基本の定着」を図る。
- (3) 生徒に学習する目的意識を持たせることで、全学級が主体的に学習規律を整え協力しながら支持的風土を高め合うことのできる集団づくりを行う。

2 重点目標

- (1) 8時15分登校を奨励し、主体的に学習に臨む姿勢を培う。
- (2) 授業と朝学習・補習・宿題を連動させ、主体的に学習する意欲を養う。
- (3) 学び合いの中でのリーダー育成により、学年、学級における学習規律の徹底を図る。

3 具体的な取組

- (1) 朝の自主活動（自習及び読書）
 - ① 時間は8:15～8:30とする。
 - ② 主体的な学習とし、学習内容は読書を含めて生徒各自に委ねる。
- (2) 放課後補習
放課後の補習を「ブラッシュアップタイム」と名付ける。生徒会学習委員会を中心とする、生徒主体の取り組みとし、生徒と先生方が協力して行う。

ブラッシュアップタイムに込めた思い

- ・生徒の立場から、「質問したい」「勉強を教えてほしい」と思っても「時間がなくできない」「先生が忙しそうで…」等の実状を解消するためにこの時間を設定する。
- ・教師の立場から、「確認テストをしたい」「残して一緒に勉強したい」と思っても「生徒が様々な用事で残らない」等の実状を解消するためにこの時間を設定する。
- ・全教師が「生徒たちとの交流の時間」と捉え、積極的なアプローチを心がける。

① ブラッシュアップタイムの実施日

- ア 毎週水曜日
- イ 定期テスト前の5日間
- ウ 必要に応じて（各種調査前など）

② 取り組みについて

- ア 放課後の30分間実施する。
- イ 各学年で5教科を中心にローテーションを行い、学力向上を図る。
- ウ 生徒同士の学び合いを中心に行うが、実施教科の先生が可能な限りサポートに入る。
例：1年国語→国語科の先生が1年フロアにいき、質問等を受け付ける。
- ウ 問題の内容は10分程度でできるものとし、気軽に学習できる雰囲気づくりを行う。
- エ 学習内容や参加制度などは、4月の生徒会学習委員会の話し合いで決定する。
- オ 生徒会学習委員会が計画を立て、事前に実施教科を生徒に周知する。

(3) 宿題

- ① 各教科における学習内容と連動した宿題を適宜与える。
- ② 宿題の内容は、各教科で把握し、必要に応じて評価に反映する。

(4) 座席

- ① 4月は番号の若い順で列をつくる。
- ② 5月以降の席替えについては、次のやり方が望ましい。

各グループにリトルリーダーを配置するなど、グループ活動がスムーズにできるようにし、テストの結果等を反映した席を担当・学級役員で相談し考案する。

- ③ 席替えは年6回程度とし、定期テスト等の結果が反映できる時期に行う。
- ④ テスト時の座席については、番号順とする。

(5) 学習規律の徹底

- ① 担任は、学期始めに生徒と「学び方の基本と授業のルール」を読み合わせ、学習規律を整える。
- ② 各学年主任と協力し、学期始めに号令のかけ方、あいさつの仕方などプロ委員会にて確認する。

始業の号令

級長が前に立つ
始業1分前にチャイム（40秒間）
チャイム終了後
級長：黙想
開始のチャイム後（3秒）
級長：これから○校時の授業を始めます。
礼
生徒：お願いします（3秒礼）
（語先後礼）

終業の号令

副級長が前に立つ
チャイムが鳴り終わった後
副級長：姿勢を正してください
副級長：これで○校時の授業を終わります。
礼
生徒：ありがとうございました（3秒礼）
（語先後礼）

(6) 学力向上強化月間（4月、11月、2月）

- ① 強化期間は、生徒会学習委員会でポスターを作成し、学校全体で学力向上により一層取り組む。
- ② 必要に応じて、水曜日以外にブラッシュアップタイムを設けるなど、学び直しを含め習熟を図る機会を確保する。
- ③ 各種検定の問題に取り組むなど、幅広く学習に取り組む機会とする。

(7) 読書活動の推進

生徒会図書委員会と連携を図り、朝読書や読書月間の取り組み等を通して、読解力・語彙力の育成を図る。

(8) 各種検定取得に向けて

各種検定取得を推進し、各教科で計画的に取り組む。3年間を通して、「実用英語技能検定・実用数学技能検定・日本漢字能力検定」全てで3級以上取得した生徒を「検定三冠王」とし、卒業要覧に記載し表彰する。